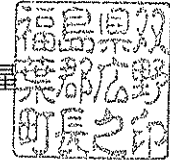




19 広建 第 309 号  
平成 19 年 4 月 24 日

国土交通省 道路局長 様

福島県双葉郡広野町長 山田 基星



中期計画についての意見書の提出について

平成 19 年 4 月 2 日付け、国道企第 114 号にて依頼のありました標記の件について別紙のとおり提出いたしますのでよろしくお願いいたします。

## 「中期計画」についての意見書

福島県双葉郡広野町長 山田基星

「道路特定財源の見直しに関する具体策」が昨年12月に閣議決定され、それを受け「中期計画」を策定して今後の道路整備の具体的な姿を示す必要があるということですが、このことについて本町の道路行政をはじめ、公共事業全般に亘り責務を負っている者として意見を述べさせていただきます。

地方にとっての公共事業の意義は誠に大きなものがあり、中央での景気回復を地方のそれと混同しているような報道が見られますが、地方経済は何ら先々の見通しさえない状況であり、公共事業の重要さを都市部の方々にも理解していただきたいと思っております。

我々地方のインフラ整備はまだまだ遅れており、特に道路整備に関しては中央で考えているように交通量という一つの尺度で整備基準を判断するわけにはいかないことをご理解いただきたいと思っております。

当双葉地方は、世界有数の電源地帯でありながらも幹線道路は国道6号線のみであり、整備が急がれている常磐自動車道の仙台延伸による高速ネットワーク形成を強く望むものであります。

主要地方道いわき・浪江線も国道6号線を補助する観点からも重要な位置づけがされておりますが、規格が3種3級と生活道路としての機能を果たすことが主であり、幹線としての役割は完全ではありません。

太平洋沿岸に集中して立地している福島第一、第二原子力発電所、さらに広野火力発電所等世界有数の発電施設を抱える当地方の幹線を整備することは、国家的な責務であると強く訴えたいと思えます。

浜街道といわれる一般県道広野・小高線の整備完了は、今後数十年を要する状況であります。これらのことも国道6号線のバイパス的な役割を果たす観点からも、整備手法の変更も視野に入れた早期完成は多くの住民の強い願いであります。

さらに当地方と中通りとを結ぶ東西方向の幹線道路も未整備であり、それらを早期実現させることは幹線道路ネットワーク上閉鎖された感の強い電源地帯に居住する住民に安心感を与えるものであると思われまます。

国道6号線における朝夕の発電所への通勤車両による渋滞も一向に改善されない状況であり、全線4車線化を進め機能強化を図ることが最重要課題であると考えます。

しかし、困難な財政的状況下にあるため、当面本路線と重要な地方道路との交差点において、右折車線等が未整備であることによる交通の妨げがみられることから、それらの解消を図り国道6号線の機能を改善することも重要であると思えます。その他、通過交通を処理すること以外にも地域住民の生活に密着した国道6号線の整備を考えるべきであると思えます。地域住民の住環境として重要な空間を有する道路は、景観を考慮しなければならないものであり、「美しい日本」を創造する役割の一端を担うべきであ

ると思っております。道路空間の整備を図ることにより地域住民に支援される道路行政、さらに公共事業全般に亘りその重要性を強く訴えるものにしなければならないと考えております。これらを強力に推進して実現していくには、我々公共事業に携わるすべての者の意識の改革が必要であり、それを多くの方々に理解していただく以外に道はないものと確信をしております。